

2016年12月28日

調査レポート

実践女子大学 人間社会学部

実践「ペルソナ」研究会

## 実践『ペルソナ』通信 (No.36)

「女子大生のパソコン利用の実態」に関する調査結果  
～パソコンの自宅所持率は100%、マイパソコンはノート型～

実践女子大学人間社会学部・実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「パソコン利用の実態」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は59サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当：竹内光悦）」、「経営学（担当：篠崎香織）」、「マーケティング（担当：斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

### 総括

「女子大生のパソコン利用の実態」について調べたところ、回答者全員が自宅にパソコンを持っており、その内の約7割が自分専用のパソコンを所持していることがわかった。パソコンを選ぶ際には「サイズ」が一番重要視されており、最も多い価格帯は「5～10万」であった。自分専用のパソコンを持っていない人も、約8割は欲しいと回答しており、その理由としては、約5割の人が2日に1回はパソコンを使用すると回答していることが関係していると考えられる。しかし、パソコンを一度に利用する時間は7割以上が「1～3時間」と回答しており、「レポート作成」以外の項目については「スマートフォン」を使用しているため、パソコンよりもスマートフォンで多くのことを済ませる傾向にあるようだ。最後に、パソコンの使用時間が長い人ほど、ブルーライトプロテクトの眼鏡を所持していることがわかり、ブルーライトが目には及ぼす影響を危惧する意識がある女子大生も少なくないことがわかった。

### 調査結果のポイント

#### (1) 女子大生の100%が自宅にパソコンを所持している

自宅にパソコンがあるか尋ねたところ、100%の人が持っていると回答した。持っているパソコンのタイプはデスクトップ型が22%であり、ノートパソコン型が78%であった。

#### (2) 半数以上が自分のパソコンを所持しており、パソコンのタイプはノートパソコン型

自分専用のパソコンを持っているか尋ねたところ、66%の人が「はい」と答え、パソコンのタイプはすべてノートパソコン型であった。

### (3) マイパソコンは一人暮らしの必需品

自分専用のパソコンを持っている人と、居住形態を聞いた質問項目を相関分析したところ、何らかの関係があるといえることがわかった。実際のデータを見たところ、一人暮らしと回答した人は全員が自分専用パソコンを持っていた。

### (4) 自分専用のパソコンを選ぶときもっとも重視するのはサイズ

自分専用のパソコンを購入する際、各要素についてどの程度重要視するか尋ねたところ、もっとも重要視しているのは、「サイズ」で 49%の人が重視すると答え、やや重視すると合わせると、75%の人が重視していた。

### (5) 1週間にパソコンを使うのは1~2回

1週間でのパソコンの使用頻度を尋ねたところ、半数近くの人が1~2回と回答した。実践女子大生の多くが週に1度はパソコンを使用し、レポート課題などに取り組んでいると考えられる。

### (6) 5~10万円のパソコンが人気

自分専用のパソコンの購入金額を尋ねたところ、最も多い価格帯は5~10万円であり、7割近い人がこの価格帯であった。約8割の人は10万円以内で購入していた。

### (7) 持っていない人も自分専用のパソコンは欲しい

自分専用のパソコンを持っていないと回答した人に自分専用のパソコンがほしいか尋ねると、「はい」と答えた人が8割強であった。

### (8) 一度に使用する時間は1~2時間未満

パソコンを使用するとき一度に連続して使用する時間を尋ねたところ、1~2時間未満と答えた人が最も多く、約4割だった。2時間未満というのは小レポートなどにかかる時間や学生の集中力がちょうど切れる頃だと考えられるため、このような結果になったと推測できる。

### (9) 最も利用する端末はスマートフォン

目的別の使用ツールを尋ねたところ、レポート作成以外の項目についてはほとんどの人がスマートフォンを利用すると回答していた。スマートフォンはどこにいても利用できるという点から、多くの人が利用しているのだと考えられる。

### (10) ブルーライトプロテクト眼鏡所有者はパソコンの使用時間が長い

ブルーライトプロテクトの眼鏡を持っているかを尋ねたところ、2割の人が持っていると回答した。回答者はパソコンを長時間使う人が多く、ブルーライトが目には及ぼす影響を危惧していることがわかった。

## 調査結果について

### <調査概要>

調査対象	実践女子大学渋谷キャンパス在学生
調査方法	調査票調査
調査期間	2016年11月18日～2016年11月22日
有効回答数	59人
回答者の属性	【学年】1年生：46%、3年生：54%

### <本調査担当チーム>

実践「ペルソナ」研究会

3年 内田成美

3年 木脇美凧

3年 根本佳小里

3年 種倉みのり

3年 橋本真希

## 調査結果データ

### (1) 女子大生の100%が自宅にパソコンを所持している

自宅にパソコンがあるか尋ねたところ、「はい」と答えた人が100%であった。さらに、自宅のパソコンはどのようなタイプか尋ねたところ「デスクトップ型」と答えた人が22%であり、「ノートパソコン型」と答えた人が78%であった。ノートパソコン型を所持している人が圧倒的に多かった(図1)。

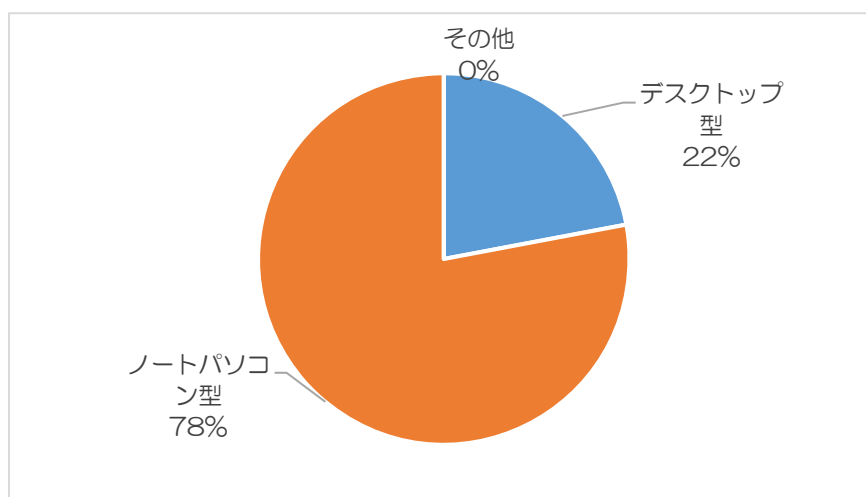


図 1. 自宅のパソコンはどのようなタイプか (N=59)

## (2) 半数以上が自分のパソコンを所持しており、パソコンのタイプはノートパソコン型

自分専用のパソコンを持っているか尋ねたところ、「はい」と答えた人が66%、「いいえ」と答えた人が34%であり、半数以上の人々が自分専用のパソコンを持っていることがわかる(図2)。さらに、自分専用のパソコンはどのようなタイプか尋ねたところ「ノートパソコン型」と答えた人が100%であった。自分専用のパソコンを持つ人は「ノートパソコン型」を選ぶということがわかる。ノートパソコン型は携帯性があり持ち運びしやすく、バッテリー動作可能で電源コンセントがない場所でも使用できる。設置スペースを抑えられ、収納しやすいという点から自分専用のパソコンを持つ人はノートパソコン型を選ぶ傾向にあるのではないだろうか。

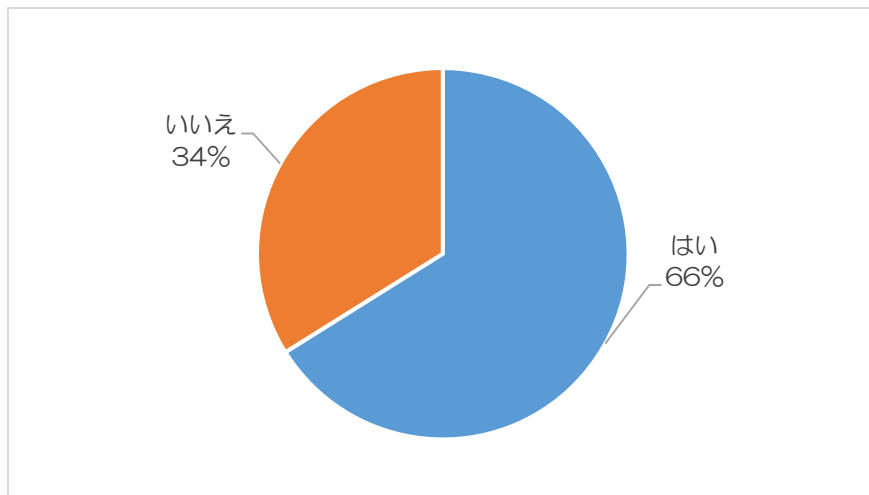


図2. 自分専用のパソコンを持っているか (N=59)

## (3) 自分専用のPCを持っている人の約7割は実家暮らし

自分専用のパソコンを持っている人と、居住形態を聞いた質問項目を独立性の検定をしたところ、有意確率が0.036で0.05以下であるため、何らかの関係があるといえる。実際のデータを見たところ、実家暮らしが67%、一人暮らしが28%、寮暮らし・その他と回答した人がそれぞれ3%ずついることがわかった(図3)。

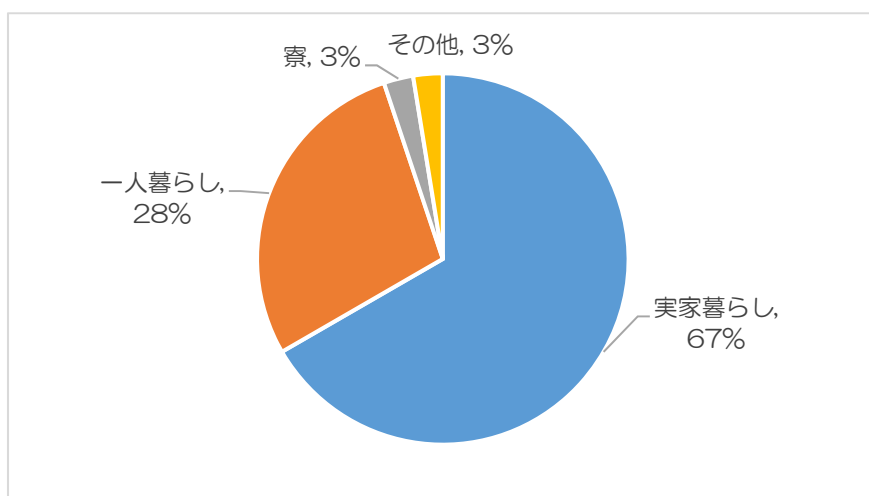


図3. 自分専用のパソコンを持っている人の居住形態 (N=39)

#### (4) パソコンを選ぶ際にもっとも重要視するのはサイズ

自分専用のパソコンを購入する際、各要素についてどの程度重要視するか尋ねたところ、もっとも重要視しているのは、「サイズ」で49%の人が「重視する」と答え、「やや重視する」と合わせると、75%の人が重視している。重要度の平均を比較すると、次いで重さ、値段が続いた（図4）。これらの結果から、女子大生はパソコンを選ぶ際、性能よりも、持ち運びのしやすさや画面の見易さの面で、自分の使用方法に適したパソコンを購入していると考えられる。

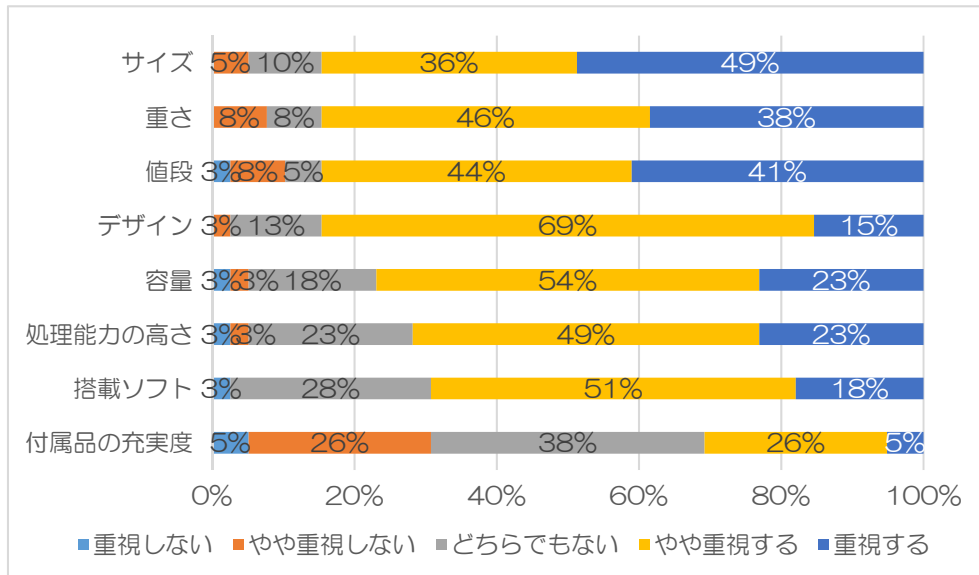


図4. パソコンを購入する際に重要視すること (N=39)

#### (5) 5~10万円のパソコンが人気

自分専用のパソコンを購入したときの金額を尋ねたところ、1~5万円と回答した人が15%、5~10万円と回答した人が67%、10万円以上と回答した人が18%であった（図5）。女子大生は購入時に値段を重視しているが、とにかく安ければいいというわけではないと考えているのではないかと考えられる。

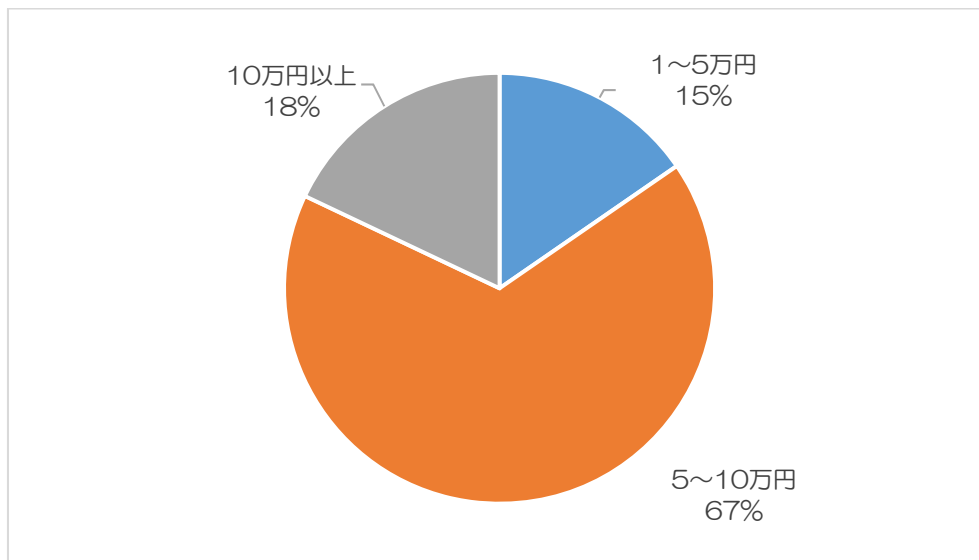


図5. 自分専用のパソコンの購入金額 (N=39)

### (6) 持っていない人も自分専用のパソコンは欲しい

自分専用のパソコンを持っていないと回答した人に自分専用のパソコンがほしいか尋ねると、「はい」と答えた人が、85%であり、ほとんどの人がパソコンをほしいと思っていることがわかった（図6）。女子大生は自分専用のパソコンをほしいと思っているものの、なかなか購入まで踏み切れないということが読み取れる。

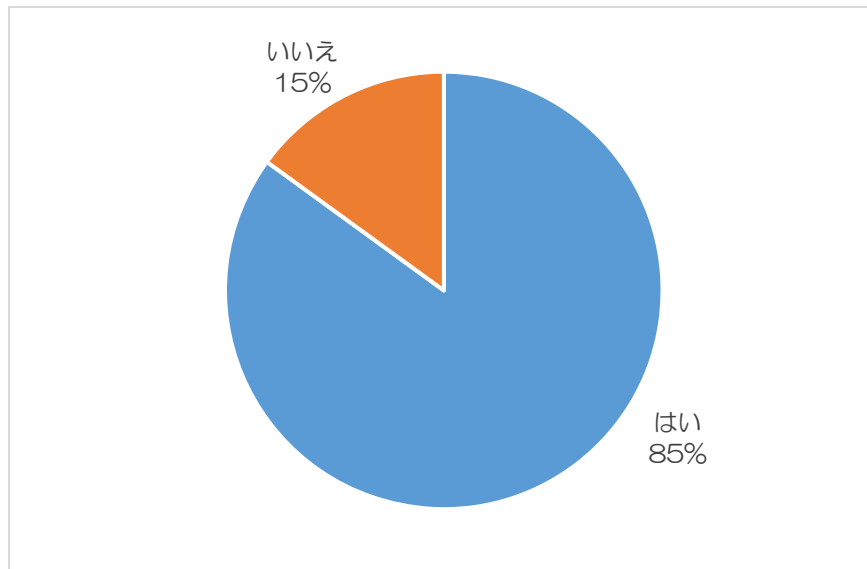


図 6. 自分専用のパソコンがほしいと思うか (N=20)

### (7) 女子大生の約5割は、2日に1回はパソコンを使用する

パソコンの使用頻度を尋ねたところ、「週1~2」と回答した人が約5割と最も多く、「使用しない」と答えた人は極僅かだった。また、「週3~4」「週5~6」「毎日」と回答した人たちを合わせると、女子大生の約5割は少なくとも2日に1回は必ずパソコンを使用するということがわかった（図7）。

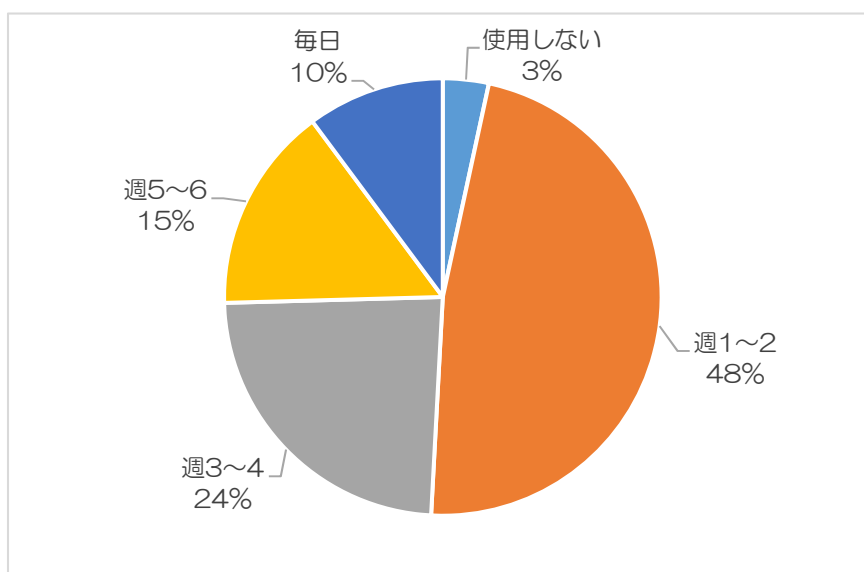


図 7. パソコンの使用頻度はどのくらいか (N=59)

### (8) パソコンの使用時間は1～3時間が7割

パソコンを使用するとき一度に連続して使用する時間を尋ねたところ、「1～2時間未満」と回答した人が約4割で最も多かった。次いで「2～3時間未満」と回答した人が多く、それらを合わせると、7割以上の人が1～3時間で切り上げていることがわかった。また、約2割の人は「3～4時間」、「4時間以上」と回答していた（図8）。

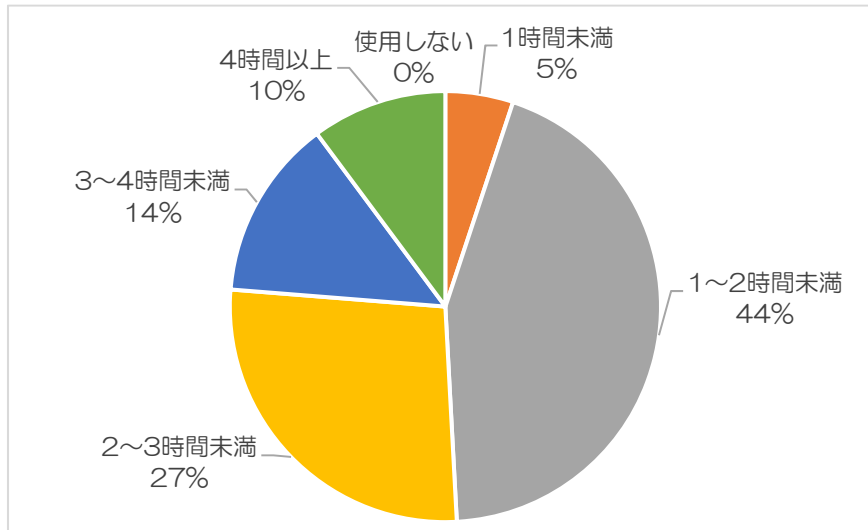


図8. パソコンを使用するとき連続して使用する時間 (N=59)

### (9) レポート作成以外はほとんどスマートフォンで済ませる

レポート作成、メールの送受信、動画鑑賞、インターネット、SNS、上記5つを行う際に、学校のパソコン、家のパソコン、自分のパソコン、スマートフォン、タブレットの内、どの端末を利用することが多いかを尋ねたところ、レポート作成は自分のパソコンで行うという人は26人、家のパソコンで行う人が17人、学校のパソコンで行うと回答した人が15人、スマートフォンで行うという人も1人いることがわかった。しかし、レポート作成以外の項目では、ほとんどの人がスマートフォンで行うと回答していて、他のパソコンやタブレットを利用すると回答している人は、どの項目も10人未満だった。SNSにおいては、59人全員がスマートフォンで行うと回答している（図9）。

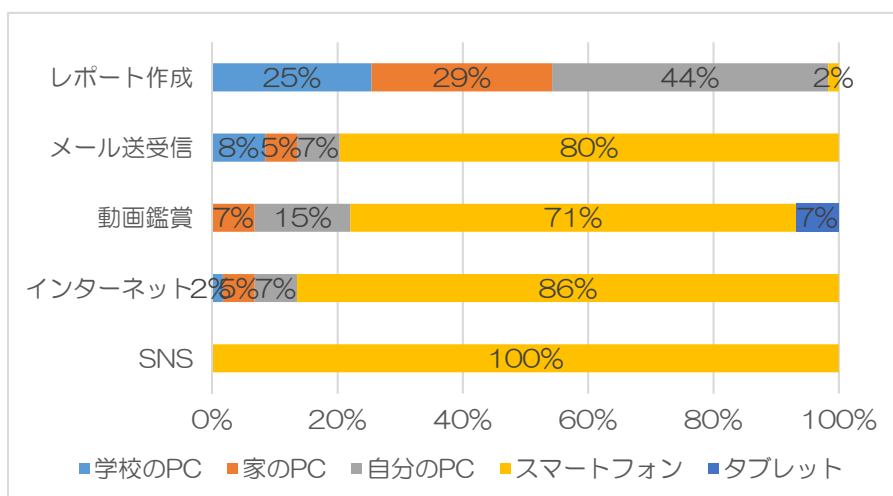


図9. 目的別使用ツール (N=59)

(10) 一日あたりの使用時間が長い人ほどブルーライトプロテクトの眼鏡を所持している

ブルーライトプロテクトの眼鏡を持っているかどうかを尋ねたところ、2割の人が持っていると回答した。予想より多く、ブルーライトプロテクト眼鏡が浸透していた。

また、ブルーライトプロテクトのメガネの有無と、パソコンの使用頻度とパソコンの使用時間の独立性の検定を行ったところ、使用頻度は有意確率が0.028、使用時間は有意確率が0.010で両者とも0.05未満となり、何らかの関係があるといえる。より関係が強いのは、1日あたりの使用時間で、結果を見てみると持っている人のほうが1日あたりの使用時間が長いことがわかった(図10、11)。

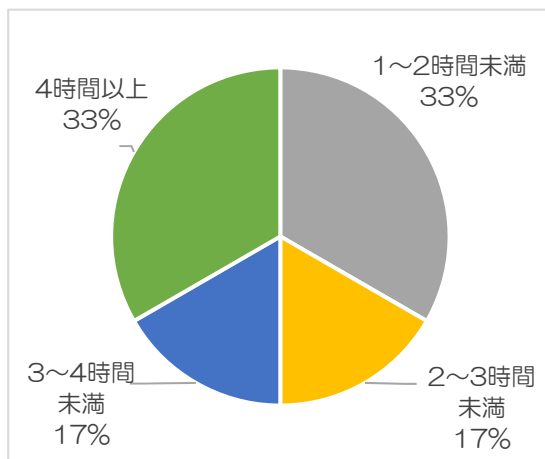


図10. 持っている人の使用時間  
(N=12)

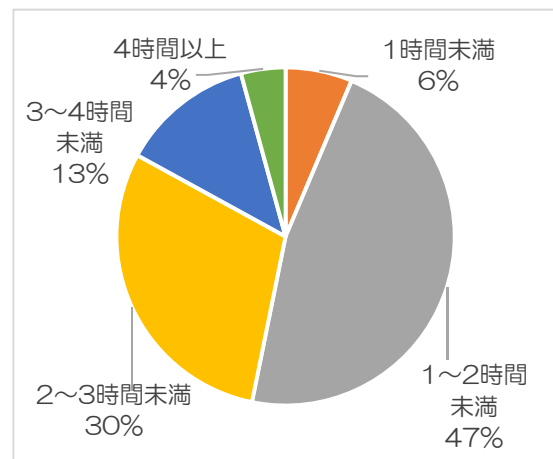


図11. 持っていない人の使用時間  
(N=47)

【今後の発展】

実践女子大生のほとんどがパソコンを使い、そのうち約半数が2日に一度は使用することを考えると、女子大生にとってもはやパソコンは必要不可欠なものであると考えられる。またパソコンだけでなくSNSなどでスマートフォンの使用率も高いことから、デジタル端末は日常生活の中にあって当然のものとなっている。近年は授業のレポートや卒業論文をオンライン上で提出する仕組みを導入している大学も珍しくない。既にスマートフォンの所持率は100%に限りなく近いが、これからますます情報化社会が進み、「パソコン1人1台」の時代がやってくるだろうと予測する。またそれに伴いブルーライトの目への影響もより注目され、ブルーライトプロテクト眼鏡の所持率も上昇していくと思われる。